

ミュージズNO. 28 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行:2012年3月

編集:山辺昌彦、山根和代、安齋育郎

翻訳:今井てるみ・瀧由里子・竹田敦子・増田妃早子・安原三保子

イラスト:戸崎恵理子

事務局:戦争と平和の資料館ピースあいち 宮原大輔

住所:〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台 2-820

Tel & Fax: 052-602-4222

安齋育郎さん、韓国のノグンリ平和賞受賞!

2011年12月21-22日、韓国ソウルとノグンリにおいてノグンリ国際平和財団による平和イベントが行われました。12月21日第4回国際平和賞式典では、安齋育郎さん(国際平和ミュージアム名誉館長)が人権賞を受賞されました。詳細はメーディ教授の記事に書かれています。

おめでとうございます!

「アジア太平洋平和研究学会」(APPRO)大会、立命館大学で開催(2011年10月14~16日)

アジア太平洋平和研究学会大会(the Asia Pacific Peace Research Association : APPRA)が11月14-16日に立命館大学で開催され、のべ870人が参加して大成功でした。ここでは平和博物館に関連した分科会が2つ開かれ、INMP会員の立命館大学桂良太郎教授と山根和代准教授が司会をしました。桂氏が司会をされた分科会では記憶の展示について、また山根氏が司会をした分科会では平和のための博物館アジア太平洋ネットワーク形成などに関する報告がありました。アジア太平洋ネットワークに関しては将来INMPのウェブサイトや通信でお知らせするようになるでしょう。

執行委員の山根和代氏は、INMPの紹介と加入の登録について紹介しました。INMPでは今後アジア太平洋平和研究学会と平和的な協力関係を結んでいくことを願っています。11月26日と27日には「平和のための博物館・市民ネットワーク」に執行委員の山根和代准教授が、また、諮問委員の安齋育郎教授は11月17-18日に開催される日本平和博物館会議に参加の予定です。

アジア太平洋平和研究学会大会での安齋育郎教授の基調講演は非常に印象的でしたが、今後INMPのウェブサイトで紹介される予定です。

安齋氏はその中で原発開発の歴史を、米ソ間の核軍備競争と関連させながら跡づけました。彼は少年時代を福島の大飯原発で過ごしたことも

あり、原発事故後状況を把握するために数回福島を訪問し、住民の放射能防護に関して住民に助言をされたのは不思議なことではありません。彼は東京大学に勤務中、原発の安全性に疑問を抱いたため多くの嫌がらせに苦しめられました。



erico

しかし、彼が早くから原発の危険性について警告を発したことの正しさが、いま証明されています。彼は平和研究者の課題について、次のように5点ほど提案しています。

- ① 平和の定義は「戦争の不在」だけでなく「暴力の不在」を含むべきである。
- ② 被災地における人々を援助する総合的な対策を講じる。
- ③ 構造的・文化的暴力を含め、初期の段階で危険な社会的徴候を見出す方法を確立する。
- ④ 福島の原発事故の悲劇を世界史において、短期的・長期的視点で明らかにする。
- ⑤ 我々が原発の恩恵に浴し、何十・何百世代後の人々の同意を得ることなく計り知れない放射性廃棄物の危険性を「負の遺産」として残すようなことは倫理的に許されるだろうか。

丸木美術館で「平和のための博物館市民ネットワーク」全国交流会（2011年11月）開催
 宮原大輔 平和のための博物館・市民ネットワーク事務局、ピースあいち事務局長

3・11以後、初の全国交流会

第11回平和のための博物館・市民ネットワークの全国交流会が11月26日（土）～27日（日）に埼玉県東松山の丸木美術館で開かれました。晩秋の自然のなかの美術館で平和のための博物館を議論するというのは、それだけでもいつもとは違う感覚と発想を呼び起こすものでした。

3・11の東日本大震災そして福島第一原発事故という未曾有の事態に向き合いながらの全国交流会であり、やはり未曾有の原爆惨禍を描かれた丸木位里、俊ご夫妻の丸木美術館で開催されたことも、いま私たちが直面していることとの縁を感じずにはおれません。夫妻の足跡をたどり、「原爆の図」が発するものを感じながら、私たちの活動を振り返ることにもなったようです。

全国からの参加者は36人にのぼり、遠く沖縄からの参加、愛知からは5名が参加したこともあり、たいへん盛況で活発な質疑も展開されました。会は、主催者からお願いした特別報告が2人、参加者の報告が9人と、内容がとても豊富で濃いもので、2日間の日程はまたたく間に過ぎていきました。

戦争体験や記憶継承の緊急性

報告・発言で印象深いのは、戦後66年を経て、戦争の体験や記憶を継承することの緊急性が幾人もの方から語られたことです。それぞれの取り組みを聞くなかで、参加者が互いに共感し、学ぶところが多いにあったと思います。

今回はプログラムの中で感銘深かったのは、丸木美術館の学芸員岡村幸宣さんによる「原爆の図」解説と鑑賞の時間です。岡村さんは、丸木夫妻と「原爆の図」誕生の経緯を60年前にさかのぼって辿り研究されています。そのお話は、この連作作品一つ一つに込められた夫妻の製作意図をわかりやすく提示くださり、初めて作品を見た方にはもちろんのこと、何度も見ている参加者にも新しい発見があり理解が深まりました。

丸木美術館では多くのボランティアが活躍していますが、2日目の昼食にはおいしいカレーを提供して下さいました。

今回の会議は、畳の部屋での、まさに膝を付きあわせての話し合いになりました。全国各地の平和のための博物館・資料館はとりわけ民立民営の館では運営の厳しさは言うまでもありま

せんが、関係者の高いところざしと努力によって成り立っていることが伝わります。

そんな私たちに、今回の交流会は大きな刺激を与え、励ましとなったものと思います。小寺理事長はじめ丸木美術館のスタッフ、ボランティアのみなさまにはたいへんお世話になりました。ありがとうございます。今年は京都での開催を予定しています。

平和のための博物館・市民ネットワーク報告
 (2010年12月～2011年11月)

●会計報告

収入		
会費		114000円
カンパ		0円
繰越		105735円
計		219735円
支出		
印刷費		72240円
送料		112916円
繰越		34579円
計		219735円

●内訳

会費			
2010年度	8人		16000円
2011年度	47人		94000円
2012年度	2人		4000円
印刷費			
日文26号			14385円
英文24号			14700円
日文27号			27405円
英文25号			15750円
送料			
日文26号			16380円
英文24号			40160円
日文27号			16216円
英文25号			40160円

●会員

2015年まで納付	1人
2014年まで納付	1人
2013年まで納付	1人
2012年まで納付	1人
2011年まで納付	48人
2010年まで納付	10人
2009年まで納付	11人
2008年まで納付	4人
2007年まで納付	1人
計	80人
入会	0人

逝去 1人
退会 3人

●事業報告

ニュースの発行

日文 26号 2011年4月
英文 24号 2011年4月
日文 27号 2011年11月
英文 25号 2011年11月

第11回全国交流会の開催

2011年11月26～27日
丸木美術館にて

●体制

事務局長 宮原大輔
事務局 ピースあいち
編集委員 山根和代・山辺昌彦・安齋育郎
運営委員 浅川保・池田恵理子・梶慶一郎・
宮原大輔・安田和也・山辺昌彦

●事業予定

ニュースの編集発行
日文2回、英文2回
第12回全国交流会の開催

第21回平和博物館研究会を開催

福島在行（ネットワーク会員）

2012年3月18日（土）、第21回平和博物館研究会を立命館大学衣笠キャンパス・アカデメイア21の4階会議室で開催しました。報告者は実践女子大学非常勤講師の源氏田憲一さん、報告題は「"YOU"としての資料館ボランティア—イメージ、物語、メッセージ—」でした。源氏田さんは、広島平和記念資料館のボランティアガイド（ヒロシマピースボランティア）を対象とし、社会心理学・教育心理学の方法で調査・分析をされました。

この研究会は2007年3月に京都で第1回を開催し、途中で中断を挟みながらも今年で活動6年目になります。当初は京都に住む数人で始めましたが、現在では参加者も増え、居住地は北海道から沖縄まで広がりました。平和のための博物館の活動紹介はすでにネットワークの交流会がありましたが、研究報告の場がなかったのでそれを補う意味も込めて結成しました。研究分野も、歴史学、教育学、博物館研究、人類学など、幅が広がってきています。mlでの情報交換もしていますので、関心をお持ちの方は、ネットワーク事務局経由で福島までご連絡ください。

アクティブ・ミュージアム「わたらの戦争と平和資料館」(wam)

wamでは2011年7月からスタートした第9回特別展「フィリピン・立ち上がるロラたち～日本軍に踏みこまれた島々から～」をより深く理解するための関連イベントを開催しています。

昨年秋には元兵士やフィリピン戦の聞き取りをした方々に話を聞くセミナーを開催。今年も、1月にはフィリピン元「慰安婦」支援ネット・三多摩（ロラネット）が開発した「戦争と女性を考えるワークショップ」を行ない、2～3月には特別展に関連する映像を監督とともに観る、上映・トークのイベント“wam de video”を開催します。また、春には大岡昇平などの戦争文学がなぜ日本軍の性暴力を描けなかったのかについてのシンポジウムを企画しており、6月17日の展示終了まで、フィリピン関連のイベントを続けていきます。

現在 wam では第10回特別展に向けての準備を進めています。次回は「沖縄」をテーマに、戦時中の日本軍による性暴力、そして現在も続く米軍による性暴力に焦点を当てた展示を行なう予定です。みなさまのご来館をお待ちしています。

特別企画展「中国との戦争と戦没学生」の報告 わたつみのこえ記念館 高橋武智

わたつみのこえ記念館では、開館5周年の2011年10月から11月にかけて、初の特別企画展「中国との戦争と戦没学生」を開催しました。太平洋戦争に先立つ中国戦線で倒れた6名の戦没学生の遺稿で構成した第1部と、当時は「銃後」の学生で、のちに戦没することになる学生6名が書き残した戦争認識・時局認識を紹介する第2部とで構成し、両部ともいくつかのテーマに沿って分類・展示しました。該当資料を、学芸員が厳密に史料として扱い、学術的・実証的に読み解いた結果、この企画展が成立したのです。全展示資料を冊子にまとめ（300円で頒布中）、館として初の資料集を残すことができました。展示期間にあわせ、亀井文夫編集の映画『上海一支那事変後方記録』（1938）のビデオ上映や、専門家とともにフォーラム：「中国から見た日中戦争」（石島紀之さん）と「日中戦争と学徒兵の短歌」（水野昌雄さん）などのイベントを開いたことも、来館者層に厚みを加えることになりました。それに『朝日新聞』が企画の紹介記事を載せたことも手伝い、来館者数は12日間で370名に達しました。

期間が短すぎたため、休日を設けつつ2か月程度にした方がよかったと反省されます。総括会議の結果、太平洋戦争にテーマを移すなどし

て、今年も企画展を続けることで一致しました。

都立第五福竜丸展示館 春の企画展から・第五福竜丸建造 65 年…

第五福竜丸平和協会事務局長 安田和也

第五福竜丸の被ばくから 58 年目、船の建造から 65 年となります。アジア太平洋戦争の敗戦と大変な物不足・食糧難の時代に建造された漁船は木造でした。被ばくした 1954 年に登録されていた木造漁船 700 隻余の中で現存する唯一の船として、木造船として資料、その価値を発信していくことも展示館の大きな課題です。それは、老朽化する船体の今後の大規模補修へと道をつけることにもつながります。

今春の企画展示は、船の歴史、木造船の建造、船大工の技などを中心に、大工道具や舵輪、探照灯など現物資料を展示します。

今年は「龍年」、第五福竜丸の龍にちなみ、子どもたちを対象に「龍」にかんする絵本のワークショップも企画しています。

さらに第五福竜丸に触発されて現代アートの造形作品を創作するヤノベケンジ氏の作品、ラッキードラゴン、サンチャイルドなどをビジュアル展示する予定です。

マーシャル諸島の人びとのこと・・・水爆ブラボー実験をはじめ 67 回の核実験にさらされたマーシャルの人びとのうち、帰郷できないロンゲラップ島の住民が今秋以降に一部帰島する動きがでています。アメリカによる 10 年ほどまえからの除染作業と住宅建設により、40 戸が建てられています。300～400 人の帰島が検討されているようですが、こうした動きをふくめ、マーシャルの人びとのいまを伝える展示企画を 9 月からおこないます。

5 周年を迎える「平和の港」

山梨平和ミュージアム理事長 浅川保

山梨平和ミュージアム（平和の港）の昨秋から、開館 5 周年を迎える今夏・今秋の取り組みについてお知らせします。昨年 9 月からの企画展「満州事変 80 年を考える」は、12 月 7 日、NHK 甲府テレビが「戦争報道を問う」と題して放映する等マスメディアの反響を呼びました。9 月 18 日には『石橋湛山全集』復刊を記念して、増田弘東洋英和女学院大教授らを講師に、シンポジウム「いま石橋湛山に学ぶ」を開催、盛況裡に終わりました。また、これまでの活動が認められ、山人会（在京山梨県出身文化人の会）より前田あきら賞を頂きました。

さて、3. 11 大震災を受けて、今年はいのちと平和の課題が引き続き問われると共に、私た

ちの「平和の港」開館 5 周年の節目の年です。4 月からの次の企画展は、「寄贈資料展」としてこれまで寄贈された実物資料をできるだけ紹介したいと思います。5～6 月の開館 5 周年事業としては、①ブックレット 3 「甲府連隊の歴史と戦場の記憶・記録」の発行、②石橋湛山平和賞の創設を検討中です。6 月 24 日の 5 周年記念講演の講師には、辻井喬氏（作家）が内定、「いま、国のあり方を問う」というテーマでお話して頂きます。

また、秋の企画展としては、日中国交正常化 40 年を記念し、「日中国交正常化と石橋湛山」（仮題）として、首相退陣後 2 度に渡って訪中、日中国交回復に向けて尽力した湛山の足跡を紹介すべく検討中です。ご期待下さい。

立命館大学国際平和ミュージアムの 2011 年度後半期の活動報告：京都市

立命館大学国際平和ミュージアム
教育文化事業課 鳥井真木

立命館大学国際平和ミュージアムは、「平和創造の面において大学が果たすべき社会的責任を自覚し、平和創造の主体者をはぐくむ」という理念に基づき、1992 年 5 月 19 日に世界で唯一の大学立の平和博物館として設立され、開設以来の入館者は 80 万人を迎えようとしています。開設 20 周年を迎える 2012 年度は、記念事業として、記念式典（5 月 19 日）、平和学術シンポジウム（11 月 30 日）や学生参加企画、記念特別展「放射能と人類の未来」、記念誌の発行を予定しています。さらに開設 20 周年記念事業を踏まえて、将来の展開を見据えたミュージアムの中長期計画を策定していきたいと考えています。

【特別展】

●「世界報道写真展 2011」9 月 21 日～11 月 20 日の期間、国際平和ミュージアム、びわこ・くさつキャンパス、立命館大学アジア太平洋大学の 3 会場で開催。公開記念講演、京都「3・11」を記録し、記憶するために」豊田直巳氏、滋賀「3・11 被災地、紛争地から看取りまで～命のバトンを受け継ぐために」國森康弘氏の講演会を開催しました。今回も写真展、講演会ともに、参観者に深い衝撃と感動を与えました。

●秋季特別展「プリーモ・レーヴィーアウシュヴィッツを考えぬいた作家」10 月 22 日～12 月 17 日 ユダヤ系イタリア人としてアウシュヴィッツに送られ、奇跡的に生還したレーヴィー（1919-1987）を日本初公開の写真や資料を含め展示しました。連続記念講演会として、「プリーモ・レーヴィーアウシュヴィッツを考えぬくこと」竹山博英氏（立命館）、「断絶の証言

者プリーモ・レーヴィ」徐京植氏（東京経済大学）、「“人間であることの恥”ふたたびー2011年の経験から」鶴飼哲氏（一橋大学）を行いました。彼の作品や証言は、人間の暴力性とそこからの回復を考える貴重な手がかりとして、熱心に見学されました。

【ミニ企画展】（タイトルと期間のみ）

●第68回：ポーレ・サヴィアーノ写真展 FROM ABOVE in 京都 2011 9月13日～10月13日

●第69回：第5回立命館附属校 平和教育実践展示 10月16日～12月23日

●第70回：ミュージアム・この1てん 紙芝居『宣戦』 1月11日～1月25日

●第71回：第17回京都ミュージアムロード参加企画「建物疎開と京都の町」2月5日～3月20日

●第72回：平和のメッセンジャー～ある軍国少年の歩んだ道 3月28日～4月15日

【特別展示・活動】

●第58回不戦のつどい協賛企画 わだつみ平和文庫資料寄託記念「わだつみ不戦の誓い」展 12月9日～12月17日

●第58回不戦のつどい〔わだつみ像前集会〕（衣笠）12月9日〔嵐のなかの母子像前集会〕（BKC）12月8日（木）

●国際平和と人権連続セミナー～平和の諸相を見る

第7回：世界平和と諸民族の友好をめざす沿海州国立アルセニエフ博物館の活動について

2012年1月13日 講師：ヴィクトル・アレクセーヴィッチ・シャライ氏（ロシア沿海州国立アルセニエフ博物館館長）

●NGO ワークショップ・環境保全 NGO シリーズ 第1弾：気候ネットワーク 10月21日 講師：豊田陽介氏（主任研究員）

第2弾：日本ナショナル・トラスト協会 10月23日 講師：中安直子氏（推進部長）

●ボランティアガイド養成講座

第7回 2012年2月12日～3月18日（全8回）

●アジア太平洋平和研究学会（APRA）2011年研究大会

「アジア太平洋における平和研究の新たな課題」10月14日～16日 次の分科会に参加協力しました。

①平和博物館のセッション」10月16日 報告者：金 英丸（平和博物館・韓国）、スウォン・カン（ハンシン大学・韓国）、ヘレナ・マイヤーナップ（エヴァーグリーン州立大学・米国）、山根和代（立命館大学・日本）

②特別セッション「中等教育の学校における平和教育の課題について」10月16日

司会：村上登司文（京都教育大学） コメンテーター：

浅川和也（東海学園大学） 室井美稚子（清泉女学院大学） 発表者：杉浦真理（立命館宇治中学校・高等学校） 山口太一（立命館慶祥中学校・高等学校） 田中京平（立命館中学校・高等学校） 野島大輔（関西学院千里国際中等部・高等部）

●沿海州アルセニエフ博物館学術交流協定調印 2012年1月13日

●第18回日本平和博物館会議への出席 11月17日～18日 会場：ひめゆり平和祈念資料館（沖縄県糸満市） 加盟館：沖縄平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念資料館、対馬丸記念館、長崎原爆資料館、広島平和記念資料館、ピースおおさか（大阪国際平和センター）、立命館大学国際平和ミュージアム、神奈川県立地球市民かながわプラザ、川崎市平和館、埼玉県平和資料館

平和資料館・草の家：高知

事務局員 中内愛

昨年、「草の家」の会員による高知県内に残る「戦争遺跡」の調査過程で、このほど東京都目黒区にある防衛省防衛研究所戦史研究センターにおいて、中曽根康弘元首相が慰安所設置に関わったことを示す「航空基地第二設営班資料」を発見し、10月27日に草の家で記者発表をしました。（2012年2月発行予定の『高知の戦争ー証言と調査ー16号』に詳しく掲載します） また、11月8日には、この問題について岡村正弘館長の名前で中曽根氏に対して、11月30日の期限を切って公開質問状を送りましたが、残念なことに現在まで回答は届いていません。

10月23日には、草の家研究員の1人が、約3年半の歳月を費やし、高知県香南市の山中で、海軍の手結（てい）砲台を発見しました。この砲台は、全てが分厚いコンクリート製で、内部に大砲を隠蔽しつつ、上空からの空襲爆撃にも耐えることができるように屋根がついたもので、ほぼ原型を留めていました。資料で確認したところ、戦争末期に構築されたものであることが判明しました。元々は本土決戦準備下の高知で、海軍の軍事施設として、来る敵の戦力（人間の命）を奪うために造られた砲台ですが、これからは子ども達に残す未来への平和教育・平和教材としての役割を担ってほしいと思います。

11月3日には、草の家平和講座「東日本大震災を考える」を開きました。幡多高校生ゼミナールの招きで来高が実現し、はるばる福島から高校生4人と先生が1人、草の家に来館してくれました。高校生達は「たねまきうさぎ」という小中高生の集まった朗読グループのメンバーで、主に県内を中心に舞台発表等活動をされて

います。朗読された詩は、福島県内の小中高生の詩や作文、日記などを構成し直したもので、草の家の舞台でも4人が交互に作品を朗読してくれました。

また、10月から、主に県内に向けて「“うちんくにあった戦争”を寄贈していただけませんか」と呼びかけています。（「うちんく」は高知の方言で「我が家」を意味します）テレビや新聞でもニュースにしてもらい、よびかけを目にした多くの方から「こんなものがあります、どうぞ」とお声をかけていただきました。1月現在も継続中で、ご連絡いただいた方のお宅に手分けしていただきにあがっているところです。3月には企画展として発表したいと考えています。

岡まさはる記念長崎平和資料館

岡まさはる記念長崎平和資料館の2011年下半期の主な活動を報告します。

- ・ 7月：岡正治さんに学ぶ会で、「岡先生のご思想と実践」と題して理事長が発話。良心的兵役拒否のドイツ青年、ユリアン・ザンダーさんが最終講演を行ない、福島原発事故による一時緊急帰国にも触れ、歴史認識と原発に対する独自の姿勢の相違を強調。
- ・ 8月：当館の第11次友好訪中団が南京、石家庄 Shijiazhuang、魏庄村 Weizhuang Villageなどを訪問。
- ・ 9月：もう一度学ぼう！「日本の近現代史」第2期公開講座の第1回、「関東大震災をめぐる社会のありさま」（担当、葛西洋子）。
- ・ 10月：機関紙「西坂だより」第63号を発行。「ヒロシマ・ピョンヤン」（伊藤孝司監督）の上映会。公開講座第2回「『男子の本懐』と昭和恐慌」（担当、木永勝也 Kinaga）。
- ・ 11月：公開講座第3回「宗教は強制なのか、それとも共生か」（担当、原和人）。NPO法人化後の第9回年次総会。
- ・ 12月：公開講座第4回「大正デモクラシーから昭和ファシズムの時代へ」（担当、奥山忍）。第11回南京大虐殺生存者長崎証言集会を開催し、陳桂香さん（当時14歳）の言葉を絶する痛ましい体験を聞くとともに、「南京の松村伍長」（松岡環監督）を上映。

<http://www.d3.dion.ne.jp/~okakinen>

Tel&Fax:095-820-5600（文責・理事長）

ひめゆり平和祈念資料館

仲田晃子

今年度は、当館が加盟するふたつの会の例会の開催館となり、志を同じくする多くの方々をお迎えすることになりました。2011年9月15、16日に、「戦争の記憶・遺跡とその保存」をテーマに沖縄県博物館協会の研修会が行われ、11月14、15日には、日本平和博物館会議定例会が行われました。

8月18日には、学校教育との連携をはかるための意見交換会を開催しました。県内の中学、高校教員10名と沖縄県平和祈念資料館の学芸員に出席いただき、それぞれの取り組みと平和教育に関する現状に関する報告をうけ、意見交換が活発に行われました。

10月3日に仲程昌徳氏（元琉球大学教授、当財団評議員）を講師にお招きし第1回目の「平和研究会」を開催しました。当館の運営母体となっている沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団では、本年度より新規事業のひとつ平和研究所の設立準備をスタートさせましたが、「平和研究会」その活動の一環として実施するものです。当財団の証言員、職員が広く戦争と平和に関する認識を深め、平和研究所構想への提言を受けることを目的としています。第2回には大田昌秀氏（元沖縄県知事）にご登壇いただきました。

2012年1月には、昨年6月に発行した『絵本ひめゆり』が沖縄タイムス出版文化賞の児童部門賞を受賞しました。「沖縄戦の実相を伝え、会話するための絵本として成功している」「絵で語る場面はしっかり絵に語らせ、文は前へ前へと進んでいく。絵本の構成もよい」（選評）等と評していただきました。

くすぬち平和文化館：沖縄市・沖縄

平和資料館は、沖縄戦をはじめとする厳しい資料と向き合う資料室と平和について語り合う場である。単純な矩形の壁の上に、そり上がった形の屋根を乗せ、その屋根に沿って導かれる自然光によって厳しい中に希望が感じられる空間にしたいと考えています。平和資料室は学生たちに勉強の場としても開放しています。夏休みや試験前には学生たちでいっぱいです。

ただいまくすぬち平和資料館では広く地域に開放するため資料の整理を急いでいるところです。

資料室には、沖縄の歴史や文化に関する資料、沖縄戦と平和に関する資料、各市町村史（誌）、昔話・民話集、戦争体験記録、映像資料等を取り揃え、地域の方々に提供したいと考えております。

つきましては、資料室の充実のため、貴市町村発行の出版物や資料等の提供方について貴職の特段の配慮をお願いいたします。

※ご提供いただきたい資料

市町村史（誌）、地域誌、昔話や民話集、副読本、平和教育資料、戦争体験記録、基地関係資料、市町村案内児童資料、市町村案内児童図書、その他

・有料の出版物については入手方法をお知らせいただければ幸いです。

・郵送料金につきましては、当館で負担いたします。

くすぬち平和文化館

沖縄県沖縄市安慶田1丁目29番10号

<http://www.kusunuchi.com/heiwa.html>

市民ネットワークニュース

萬鉄五郎記念美術館：岩手・花巻市

「写真家 菊池俊吉が捉えた昭和展」が、2011年9月23日～2012年1月29日の会期で開催されました。菊池俊吉は岩手県花巻市出身の報道写真家で、戦時下にあっては、『FRONT』を発行していた東方社写真部の一員となり、本土及び外地の部隊の撮影や産業記録など幅広く撮影しました。終戦直後には文部省の原爆被害調査団の一員として広島を撮影しました。戦後は、農村漁村の暮らしを題材としたシリーズや科学分野の撮影などで活躍しました。太平洋戦争、銀座炎上、原爆被災地広島、焼け跡と敗戦、平和復興、日本の原風景の6テーマに沿い、計153点の写真を展示しました。このうち、原爆被災地広島では、被爆した産業奨励館ドームや広島駅など悲惨な街の状況をはじめ、やけどや脱毛などで治療を受ける沈痛な患者たちの表情を、55枚の写真で伝えました。平和復興では、人びとの立ち上がろうとするエネルギーが際立つ闇市やバラック小屋の写真、日本を背負うとみられる明るい男女の写真など21枚が展示されました。戦中戦後を通して銀座のありようを記録した写真は、昭和という時代を通して、刻々と変化する街の様子を示しています。

Tel:0198-42-4402 Fax:0198-42-4405

<http://www.city.hanamaki.iwate.jp/sightseeing/yorozu/>

埼玉県平和資料館：東松山市

テーマ展「寄贈資料が語る戦時の記憶－平成22年度新収集資料を中心」が2011年12月3

日～2012年2月26日の会期により、企画展示室で開催されました。埼玉県平和資料館は、戦争に関する資料や、戦中～戦後期の生活用品などを収集し、保管しています。2010年度は、21人の方から計592点の貴重な資料が寄贈されました。本展では、その中から、「暮らしの中の戦争」「総力戦－全ては戦争のために」「それぞれの戦場」「手紙－家族への想い」の4つのテーマを設けて約100点を展示し、資料が語る戦争の記憶を伝えています。

Tel: 0493-35-4111 Fax: 0493-35-4112

<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

八潮市立資料館：埼玉

第26回企画展「公文書にみる戦時下の生活」が2011年9月16日～10月16日の会期で開催されました。戦時中の八潮市域の人びとは、働き手や生産手段を奪われる中で戦争継続のために食糧増産等の多大な協力が求められました。また、八潮市域は太平洋戦争開戦翌年の1942年には、埼玉県下で最初に空襲を受け、その後も大規模な空襲こそ無かったものの、たびたび空襲を受けました。さらに八潮市域からも大勢の方が出征し、亡くなられています。今回の展示では、資料館が所蔵する公文書を通じ、戦時下において当時の人びとがいかなる生活を送っていたのかを紹介していました。展示で、1. 「村から戦場へ」では日本の徴兵制度を、2. 「戦争への協力」では国防婦人会・愛国婦人会、大政翼賛会、隣組・常会を、3. 「銃後の生活」では圧迫される生活、戦時下における供出、代用品、戦時下の食生活、戦時下の衣料、戦時下の娯楽、戦時下の学校生活を、4. 「八潮市域と埼玉県下を襲った空襲」では、空襲に備えて・防空訓練の実施、八潮市域と埼玉県下の空襲を、5. 「戦場から村への帰還」は、戦死者としての帰還、傷痍軍人としての帰還などを取り上げていました。展示資料一覧掲載の解説資料を作成しています。

同時に、踊り場展示では「戦時下の女性たち－『日本婦人』より」を展示していました。太平洋戦争中、戦況が悪化する中で、男性は戦地に向かい、物資も少なくなりました。そのような中で、残された女性は家庭内で重要な役割を担っていました。この展示は、当時発行された『日本婦人』という雑誌から記事を抜粋し、戦時下の生活を女性の視点に立って捉えるもので、身近な4つのテーマ(食事・教育・健康・生活)に分けて構成していました。厳しい環境下において女性たちが工夫して生活していたことに注目し、当時の生活を少しでも感じとって

もらうために開いたものです。

Tel:048-997-6666 Fax:048-997-8998

<http://www.city.yashio.lg.jp/siryoukan/>

蕨市歴史民俗資料館：埼玉

第 22 回平和祈念展「戦中・戦後の食と暮らし」が 2011 年 7 月 30 日～9 月 25 日の会期により、2 階展示室で開催されました。蕨市は 1945 年に 3 回の空襲を受け、死者 50 人、全半壊家屋 400 戸という埼玉県下 2 番目の大きな被害を受けました。この悲劇を 2 度と繰り返さないためにも、戦争という事実・記憶を次の世代に伝えねばなりません。第 22 回平和祈念展は戦中・戦後の物資が不足した時代に登場した代用食や代用品を中心に人びとの暮らしを紹介しながら、平和の尊さを考える展示会でした。

「15 年戦争の開幕」「国民総動員「節米と代用食」「食器や調理器具も代用品」「蕨の空襲被害」「戦後の食糧難と人びとの暮らし」などの展示構成で、代用食や代用品のほか、召集・出征関係資料、駅弁の包み紙、配給切符・通帳、ジュラルミン製品、日本国憲法関連資料なども展示していました。図録を作成しています。

Tel:048-432-2477

<http://www.city.warabi.saitama.jp/hp/menu00000200/hpg000000120.htm>

東京大空襲・戦災資料センター：江東区

2011 年 8 月 13 日に「東京大空襲証言映像プロジェクト」が作成した証言映像作品「孤児たちの「お母さん」と「片隅の祈り」の 2 作品の上映会と、制作にたずさわったスタッフによるトークイベントを開催しました。

「2011 年夏の親子企画ーみて！ きいて！ つたえよう！ 東京大空襲」が 2011 年 8 月 17 日～21 日に開かれ、紙芝居、朗読、空襲体験者の話、「衣」から見た戦争の話などがありました。感じたことをうちわに描いて、思いを「つたえる」企画もありました。

2011 年 10 月 29 日に、猫座による一人音楽劇『猫は生きている』が上演されました。『猫は生きている』は、早乙女勝元作・田島征三絵による絵本『猫は生きている』（理論社、1973 年）が原作で、脚本・演出家の大久保昌一良さんが 2006 年に脚本を書き一人音楽劇にしあげ、シンプルな楽器の演奏に、女優の福井淑恵さんが 9 役を演じ分けるもので、2011 年が 4 回目の公演でした。2011 年 2 月に座長の久保さんが急死し、一時はこの芝居の存続もあやぶまれましたが、猫座の存続が決まり、公演にこぎつけることができました。

シンポジウム「空襲資料の活用と戦災デジタルマップの世界ー霊名簿・体験記・証言映像を読み/表す」を、2011 年 11 月 19 日に、明治大学駿河台校舎研究棟で、開きました。問題提起は東京大空襲・戦災資料センター主任研究員の青木哲夫さんで、報告は、墨田区立すみだ郷土文化資料館学芸員の西村健さん「東京大空襲における人的被害の復元的検討ー「東京大空襲被災地図」と証言記録の分析から」、東京大空襲・戦災資料センター主任研究員の山本唯人さんと明治大学大学院博士後期課程石橋星志さんの「東京大空襲証言の解説と戦災デジタルマップの制作ー時空間マップソフトウェア（c-loc）を活用して」でした。今回のシンポジウムは、資料センターが続けてきた 2 つの研究会「霊名簿研究プロジェクト」と「東京大空襲証言映像プロジェクト」の活動から見えてきた成果を中間発表し、空襲資料の活用と、戦災デジタルマップ制作の課題について考えるものでした。

Tel : 03-5857-5631 Fax : 03-5683-3326

<http://www.tokyo-sensai.net/>

せたがや平和資料室：東京

特別展「太平洋戦争と世田谷」が 2011 年 8 月 1 日～31 日の会期により、教育センター 1 階エントランスホールで開催されました。多くの悲劇を生んだ第二次世界大戦・太平洋戦争の体験が、戦後 66 年が過ぎて風化し、次の世代に語り継ぐことが難しくなっている中、2 度とこの様な悲劇を繰り返さないよう、過去の歴史をふりかえり平和の尊さを考えるようになって欲しいという願いを込めて開いたものです。2011 年は太平洋戦争と世田谷の関わり、戦時下と戦後の世田谷にスポットをあて、当時、区内にあった軍関係施設の場所や様子、区内の空襲の状況や、子どもたちの様子、さらには、多摩川の上空を飛行する B 29 などの太平洋戦争関連の写真パネル、生活用品などの資料を展示しました。

Tel:03-3703-8100 Fax:03-3703-8100

<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/030/d00005024.html>

板橋区立美術館：東京

20 世紀検証シリーズ No. 3 「池袋モンパルナス展」が 2011 年 11 月 19 日～2012 年 1 月 9 日の会期で開催されました。今から約 80 年前、現在の池袋駅を中心とする一帯に、アトリエ付き住宅が建設され始めました。画期的なこの物件には、借家人募集のビラやロコミで集まった画学生や若かりし日の鬚光、麻生三郎、寺田政

明、松本竣介らをはじめとする画家や評論家、詩人、演劇関係者などが互いの家や酒場に集い、芸術論を交わしました。その中の1人である詩人の小熊秀雄はこの集落を芸術の都、パリのモンパルナスに重ね合わせて「池袋モンパルナス」という詩をよんでいます。ところが、1930年代も半ばになると、日本は戦争の暗い影に覆われ、画家たちの中には召集を受け、兵隊や画家として従軍し、絵画による慰問や戦争協力画を描いた者もいました。また、1930年代を中心に若い画家たちの間で流行したシュルレアリスム風の絵画は、戦時中の文化や思想の統制により発表が難しくなりました。1945年の空襲によりこの地域も大きな被害を受けました。画家たちの中にはアトリエはもちろんのこと、戦前の作品や画材を全て焼失した者もいました。本展では、1930～1940年代を「池袋モンパルナス」で過ごした画家のうち、板橋ゆかりの寺田政明、古沢岩美、井上長三郎と彼らの交友の画家、詩人の作品を紹介していました。絵画、彫刻、詩、資料の展示に加え、今回は彼らの暮らしたアトリエ付き住宅の間取りをほぼ実物大で体感することができるコーナーも設けていました。図録を刊行していますが、その中に吉井忠の戦時中の日記を翻刻しています。

Tel:03-3979-3251 FAX:03-3979-3252

<http://www.itabashiartmuseum.jp/art/>

川崎市平和館：神奈川

企画展「核廃絶に向けた新たな動きーヒバクから考える核廃絶」が2011年11月16日～12月6日の会期により、1階屋内広場(平和の広場)で開催されました。核兵器や核戦略、核軍縮、核のサイクル、自治体・草の根の核廃絶に向けた動きなどのパネル展示や関連映像の上映を通じて、広島・長崎の原爆投下による被爆と、3.11以降、私たちが日常として向き合う被曝の視点から、核廃絶の意義と平和について考えるものでした。

Tel:044-433-0171 Fax:044-433-0232

<http://www.city.kawasaki.jp/25/25heiwa/home/heihome/index.htm>

明治大学平和教育登戸研究所資料館：神奈川・川崎市

企画展「風船爆弾の風景 2011」が2011年10月26日～12月17日の会期で開催されました。風船爆弾とは和紙とこんにやく糊からできた気球で爆弾を運ぶ兵器で、アジア太平洋戦争末期にアメリカ本土を直接攻撃する「決戦兵器」として登戸研究所を中心に開発され、1944年か

ら1945年にかけて放球されました。企画展では各地に点在する放球基地・ウイルス開発地・気球用和紙開発地の現在を写真でとり、社会と科学との関係を見つめ直す機会にしてみようために開かれたものです。

Tel/Fax:044-934-7993

<http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html>

日本新聞博物館（ニューspark）：神奈川・横浜市

企画展「日米開戦70年 水木しげるの戦争と新聞報道」が2011年11月5日～12月25日の会期により、2階企画展示室で開催されました。本展はひとりひとりの人間に戦争が何をもたらしたのか、に思いをめぐらせるきっかけにするために開かれたもので、南方の激戦地・ニューブリテン島に送られ、最前線で生き抜いた一兵士、漫画家の水木しげるが戦争の不条理、むなしさを語りかけるように描いた作品と、当時の新聞報道を展示していました。あわせて、所蔵資料の戦時中の言論統制を示す資料も展示していました。

Tel:045-661-2040 Fax:045-661-2029

<http://newspark.jp/>

愛川町郷土資料館：神奈川

夏季の展示会「戦争の記憶ー戦後66年」が2011年8月1日～31日の会期により、企画展示室・エントランスホールで開催されました。悲惨な史実を風化させないために、戦争とそこからの復興の歴史をたどる展示会で、町域に所在した相模陸軍飛行場(中津飛行場)や、ふるさとからの出征兵士、戦時下の郷土の様子、さらには「引揚者」や戦後の復興に至る町の歴史を振り返っていました。

Tel:046-280-1050 Fax:046-280-1051

http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/shisetsu/cul/cul_01.html

新潟市會津八一記念館：新潟

企画展「戦争と八一」が2011年7月3日～9月4日の会期で開催されました。八一が生きた太平洋戦争の時代とその芸術を再検証する企画でした。早大時代の教え子・長島健が出征する際に、八一から万葉歌を揮毫してもらった「日章旗」をはじめ、戦中戦後に出版した歌集『山光集』『寒燈集』を中心に、悲惨な戦争の現実や揺れ動く詩魂に触れた歌書作品や資料を紹介していました。

関連して、記念講演会が7月24日にクロスパ

ルにいがたで開かれ、文芸評論家の喜多上さんが「戦争と八一」と題して講演しました。
Tel:025-222-7612 Fax:025-222-7614
<http://aizuyaichi.or.jp/>

岐阜市歴史博物館分室 柳津歴史民俗資料室：岐阜

展示会「戦時下のポスター3ー増産と暮らし」が2011年8月2日～9月4日の会期で開催されました。戦争遂行・戦意昂揚のための宣伝手段として、戦時下にはさまざまなポスターが作成・掲示されました。本展ではそのなかから、増産と暮らしに関わるものを選んで展示しています。展示したポスターは岐阜県川合村の役場で掲示されたものです。戦争の長期化により兵器や物資が不足するにともない、銃後の国民への締め付けが厳しくなっていました。生産現場を前線と直結する「戦場」と訴え、儉約に励んで「御奉公」を求めるポスターは、当時の切迫した状況を伝えています。「増産ポスター」では、ヒマを作ろう 養蚕報国 飛行機増産 石炭増産 大和一致 男女要員募集 米供出生産増強 などが、「儉約と暮らしポスター」では、国民精神総動員 愛国 日本国防協会 この備えこの構え 勤儉 一斉常会 長期建設 などが展示され、その他、終戦放送予告掲示 戦意高揚の木目込み人形も展示されました。
Tel:058-270-1080
<http://www.city.gifu.lg.jp/c/40120461/40120461.html>

静岡平和資料センター：静岡市

企画展「ある軍国少年が見た戦時下の大人たち」が2011年9月23日～12月23日の会期で開催されました。戦時中の日本は、庶民にとって家族や友人を失い、空襲で焼け出され、食べ物はなく空腹に耐える生活でした。そして、子どもたちは戦争要員（いわゆる軍国少年・少女）として教育されたのです。本展は、17歳で敗戦を迎えたひとりの軍国少年のエピソードをパネルと資料によって展示するという、戦争体験を後世に伝える新たな試みでした。

「戦跡めぐり（静岡市葵区）」が2011年10月30日に開かれ、静岡空襲や静岡歩兵34連隊に関連する戦争遺跡をマイクロバスでまわり、それぞれの遺跡で、戦争体験者や当時のことを知る人から話を聞きました。

「第9回戦争体験を聞くつどい」が2011年11月23日にシズウェル（県総合社会福祉会館）で開かれ、朝比奈正典さんが「静岡大空襲・B29 墜落。その時、市民は…」を、興津秀男

さんが「極寒の揚子江 輸送船撃沈の悲劇」を、それぞれ話しました。武田康夫さんが「特種潜航艇“蛟龍(こうりゅう)” 搭乗員として」を話す予定でしたが、体調を崩されたため、武田さんの手記を読み語りしました。

Tel:044-433-0171 Fax:044-433-0232
<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

浅井歴史民俗資料館：滋賀・長浜市

第9回終戦記念展「兵事係がみた戦争」が2011年8月1日～9月4日の会期で開催されました。浅井歴史民俗資料館は、2003年より戦争体験を振り返り、平和と命の大切さについて考える「終戦記念展」を毎年開催してきました。昨年106歳で亡くなられた大郷村元兵事係の西邑仁平さんが残され、浅井歴史民俗資料館に寄託された貴重な大郷村兵事関連資料のうち、戦時動員時の召集・徴発などの関係資料を展示しました。平和な社会をどのように構築し、次世代に手渡してゆくことができるか、展示をおして生命と平和を考える機会とするために開かれたものです。「機密文書の湮滅」・「西邑仁平氏の紹介」・「大郷村兵事関連資料の特色」・「地域資料としての特徴」などの解説とともに、壮丁名簿 動員手簿 在郷軍人名簿 召集令状 召集令状受領書 動員令予報 告知票 馬匹徴発伝達書 動員に関する書類綴 徴兵に関する書類綴 兵事に関する書類綴 防諜に関する書類綴 村葬儀に関する書類綴 在郷軍人会大郷村分会史 村内巡視心得書 使者心得書 配達区域要図 出征軍人札 愛国婦人会絵葉書などの現物資料と、徴兵検査 軍人引率 村役場 西邑仁平さん 慰問袋発送 国防婦人会分会 村葬 などの写真を展示していました。今年も、博覧会バスがはしり便利に行かれましたが、三姉妹に押されて、壁の大ケース1つのみで小規模でした。
Tel:0749-74-0101
<http://www.city.nagahama.shiga.jp/index/000012/002487.html>

栗東歴史民俗博物館：滋賀

ロビー展示「平和のいしずえ 2011ー戦地からの手紙」が2011年7月30日～9月4日の会期で開催されました。栗東歴史民俗博物館では、栗東市の「心をつなぐふるさと栗東」平和都市宣言をうけて、1990年度から戦争と平和をテーマとする「平和のいしずえ」展を開催してきました。これは市内外の所蔵者から提供された資料を通じ、近代以降の戦争の歴史と戦時下の生活を再現することで、地域の視点から平和に

ついて考えようとするものです。今年、戦地と内地をつないだ書簡を中心に、軍隊生活とそれを支えた地域の活動に焦点を当てています。この展覧会は、戦争と平和について考える機会とするために開かれたものです。

展示趣旨と軍事郵便、アジア・太平洋戦争と軍事郵便、銃後から戦地へ「慰問活動」、戦時下の国民生活の各コーナー解説を収録した「解説書」と展示リストなどを作成していました。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755

<http://www2.city.ritto.shiga.jp/hakubutsukan>

大山崎町歴史資料館：京都

第13回「平和のいしずえ展」が2011年8月9日～21日の会期により、研修室で開催されました。大山崎小学校に保存されていた資料など、戦時前、戦中に使われた物は、当時の歴史を考える貴重な資料であり、文化財です。こうした文化財から、戦時中の地域社会を振り返り、平和の尊さを語り合う機会にするために開かれたものです。大山崎小学校蔵の空襲警報発令中の木札と箱入りの処女会旗、大山崎小学校に贈られたアメリカの学校からのアルバム、支那事変写真全集(上下・3・4)、御国之誉、誠忠画鑑、興亜の光、大和桜、土と兵隊、国民服儀礼章箱、支那事変絵本、輝く日本軍などを展示していました。

Tel&Fax:075-952-6288

http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp/content_s_detail.php?co=kak&frmId=5077

京都市学校歴史博物館：京都

企画展「学校 日々あれこれ 閉校した学校の資料が語る まなびや・学校生活—中京区編」が2011年9月24日～2012年2月13日の会期で開催されました。統合によって閉校した中京区内の学校に遺された資料の中から、学校の開校時からの資料を展示し、校舎の変容、子どもたちの学校生活、学区の様子などを紹介していました。青い目の人形(京都市立高倉小学校蔵)や宿舍門標、献立表、申込書、記録綴などの学童疎開関係資料も展示していました。

併設していた「戦時下の学校生活」展では、京都市内の第二次世界大戦中およびその前後を対象に、当時の学校生活を知る上で貴重な資料である、複写御真影、勅語謄本、三種の神器の形代、作文「米英戦争」、国民学校研究発表要項、靖国神社参拝関係資料、新教育指針、教職適格確認書などを展示していました。解説シー

トと展示資料目録を作成していました。

Tel:075-344-1305 Fax:075-344-1327

<http://kyo-gakurehaku.jp/>

向日市文化資料館：京都

夏のミニ展示「くらしのなかの戦争」展が2011年8月6日～9月4日の会期により、1階ホールで開催されました。市民から提供された戦争関係の資料の中から、旧満州などの戦地で撮影された写真を中心に展示していました。旧満州の写真には、兵士や戦闘の様子だけではなく、戦地となった地域の風景やそこに暮らす人を写したものもあります。このほか『輝く陸軍写真帳』『比東派遣軍』、海軍で支給された木製手箱、明治から昭和初期に使用された銭貨なども展示しています。このような物をおして、もう一度平和について見つめなおすきっかけとするために開いたものです。解説書を作成しています。これには、満州の風土、鉄道、都市、住民、兵士などの写真内容説明と年表と関連地図と展示資料目録が掲載されています。今年就職した嘱託学芸員が担当した展示です。

Tel:075-931-1182 Fax:075-931-1121

<http://www.city.muko.kyoto.jp/bunka/shiryokan.html>

大阪国際平和センター(ピースおおさか)：大阪市

終戦の日平和祈念事業 開館20周年記念「学童疎開 少国民と今の子どもたち」が2011年8月14日に1階講堂で開催されました。戦後66年たち、太平洋戦争末期、空襲を避けるために子どもたちが親元を離れて暮らした「学童疎開」の記憶も薄れつつあります。今回の催しでは、まず、学童疎開についての代表的な劇映画『ボクちゃんの戦場』や、その制作過程の舞台裏を描いたビデオを鑑賞し、次いで、映画『ボクちゃんの戦場』の原作者奥田継夫さんと元天理大学教授の赤塚康雄さんの対談により、それらを素材として、戦争中の少国民と今の子どもたちの比較の観点から、疎開や戦争、平和の意味について考えるものでした。

同じく、終戦の日平和祈念事業 開館20周年記念「キャンドルナイト ピースコンサート」が2011年8月14日の夜に1階講堂と「刻の庭」で開催されました。ミニステージ「おしゃべりシャンソン」、今里哲さんの「私の歌の道は「終わらない旅」の後、キャンドルが幻想的な空間をつくりだす「刻の庭」で空襲を体験した方の話を聞き、戦争と平和について考えるひと時を過ごしました。

2011年8月6日には、終戦の日平和祈念事

業 開館 20 周年記念「ノーモア広島・長崎一体験者が慟哭を語り・読む」が開かれました。新風書房が出版している『孫たちへの証言』の中から原爆体験記を選び朗読すると共に被爆体験者が証言しました。

夏休み子どもまつりが、2011 年 8 月 3 日～25 日に開かれ、映画の上映と紙芝居「はだしのゲン」の上演をしました。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://www.peace-osaka.or.jp/>

大阪人権博物館(リバティおおさか)：大阪市

第 66 回特別展「モダンガールズー青鞆の時代」が 2011 年 9 月 6 日～11 月 6 日の会期により、特別展示室で開催されました。1911 年 9 月、女性による女性のための雑誌『青鞆』が創刊されました。創刊号で平塚らいてうは、「元始、女性は実に太陽であった。真正のひとであった」と宣言し、大阪出身の歌人・与謝野晶子は「すべて眠りし女今ぞ目覚めて動くなる」と女性たちの覚醒を唱いあげました。『青鞆』に集った「新しい女」たち＝“モダンガール”は、女性に対する古い習慣や考え方を打ち破る主張を広めていきました。身体や性の問題で悩み、結婚や出産を迷い、職場でのセクシュアルハラスメントに憤るモダンガールズの主張は、今を生きる女性たちにも共通のものでもあります。本展は『青鞆』創刊 100 年を記念し、モダンガールズの主張や論争をふり返り、現代の女性たちを取り巻く状況を考えようとするものでした。展示構成は、『青鞆』と女学校、『青鞆』と「新しい女」、『青鞆』の主張と論争、現代の「新しい女」たち でした。図録を刊行しています。

関連して、シンポジウム「青鞆とフェミニズム」が 2011 年 9 月 17 日にリバティホールで開かれ、NPO 法人平塚らいてうの会会長の米田佐代子さんが講演しました。

共催展「親鸞と被差別民衆」が 2011 年 11 月 22 日～12 月 18 日の会期により、特別展示室で開催されました。主催は大阪人権博物館で、浄土真宗本願寺派・真宗大谷派が共催しました。真宗大谷派の東本願、寺は 2011 年 12 月 3 日～2012 年 1 月 22 日の会期により、参拝接待所で、浄土真宗本願寺派の西本願寺 2011 年 12 月 4 日～2012 年 1 月 16 日の会期により、境内と龍谷大学龍谷ミュージアムでそれぞれ開催されました。浄土真宗の宗祖である親鸞聖人が亡くなって 750 年の時にあたり、関心が高まっています。親鸞聖人は、当時「屠沽下類」などとされてきた人びとをはじめ多くの民衆と出会い、ともに生きるなかで、すべての人が等しく救済される

とする悪人正機説をとらえました。また、戒律において僧侶の妻帯を否定し、女性を蔑視した存在と見た当時において、親鸞聖人は妻帯を、ともに生きました。本展では、親鸞聖人の思想とあらためて向き合うことで、彼が生きた時代の身分制と被差別民について考え、親鸞聖人が克服しようとしていた問題について明らかにしました。また、被差別部落の多くは浄土真宗と深い関わりがあることから、真宗をはじめとした仏教と部落問題の歴史についても知るとともに、親鸞聖人の思想を生き方を通して、浄土真宗がこれまでの歴史のなかで部落問題とどのようにかかわってきたかをたどり、これからの部落問題について考えるものでした。そして、そのことによって、「なぜ、いま親鸞なのか」という現代における親鸞思想の意義を確かめることによって、人間解放への道を明らかにしたいというものでした。展示内容は、1. 親鸞の生涯 2. 濁世を生きた親鸞 ①山を出て ②恵信尼と親鸞 ③被差別民衆とともに ④非僧非俗 3. 親鸞の教えと被差別部落の人びと でした。

Tel : 06-6561-5891 Fax : 06-6561-5995

<http://www.liberty.or.jp/>

吹田市平和祈念資料室：大阪

企画展「来て 見て 知って 戦争と平和一夏休みの自由研究は“平和”について考えよう」が 2011 年 8 月 2 日～28 日の会期で開催されました。原爆について学ぼう 吹田空襲について学ぼう 戦時中の食生活について学ぼう 精米を体験しよう 戦争体験を語るビデオを見てみよう などの構成でした。同時に「シベリア抑留絵画パネル展」も開催しました。

Tel&Fax:06-6387-2593

<http://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-jichijinken/jinken/000338.html>

堺市立平和と人権資料館(フェニックス・ミュージアム)：大阪

特別展「ヒロシマ原爆展」が広島市、(公財) 広島平和文化センター・平和記念資料館と共催で、2011 年 8 月 4 日～10 日の会期により、堺市教育文化センター(ソフィア・堺) 大ギャラリーで、原爆被害の実相を伝え、核兵器廃絶の世論を醸成し、世界恒久平和実現の推進を図ることを目的に開催されました。広島平和記念資料館所蔵の被災写真等パネル(約 50 点)、広島平和記念資料館所蔵の被爆資料の展示(真っ黒になったお弁当、焦げた瓦など(約 30 点)、広島市民が描いた原爆の絵などを展示し、平和

の折り鶴コーナー、平和メッセージコーナー、平和・原爆図書コーナー、被爆体験手記コーナー、インターネットコーナー、堺原爆被害者一世・二世の会活動紹介コーナーを設置し、原爆に関するアニメ、記録映像などのビデオを上映しました。

企画展示「沖縄戦とひめゆり学徒」がひめゆり平和祈念資料館の資料提供により 2011 年 10 月 1 日～12 月 28 日の会期で開催されました。太平洋戦争末期の 1945 年 3 月 23 日、米軍は沖縄への上陸作戦を開始しました。圧倒的な戦力で空襲、艦砲射撃に加え、住民を巻き込んだ想像を絶する悲惨な地上戦がおこなわれ、20 万余の尊い命が失われました。戦場で最も被害をこうむったのは沖縄で生活している一般住民でした。この企画展では、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さについて考えるために、同時期に看護要員として沖縄陸軍病院へ動員されたひめゆり学徒（沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の生徒）と沖縄戦について展示しました。

Tel:072-270-8150 Fax:072-270-8159

http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_jinken/

歴史館いずみさの：大阪

2011 年度第 4 回ホール展示「戦争・平和資料展」が 2011 年 7 月 30 日～8 月 28 日の会期により、エントランスホールで開催されました。8 月 15 日の終戦記念日を迎えるにあたり、平和を考えるために、当時の資料などを紹介する展示でした。この展示は、博物館実習生が企画・設営しました。「戦時下の生活」の「生活一般」では、薬袋 衣料切符 米通帳 双六 図解簡易保険パンフレット 生活用品販売リスト 金属供出ちらし 新聞記事・号外を、「戦時下の文化・教育」では、修身書 通知簿 「祈武運長久」と書かれた旗が飾られた 1938 年 3 月当時の第二小学校の写真 教育読本 雑誌 映画ちらしを、「戦時下の服装」では、防空ずきん もんぺ 国民服 布バケツを、「戦争と軍人」の「軍人一般」では、出征たれ幕 国民兵召集令状 訓練教程 防毒面 従軍記章 軍隊手帳 恩賜のたばこ 革靴 奉公袋 戦地からの手紙 お守り 支那事变写真全集を、「軍人の服装」では、軍服 軍帽 鉄帽 長靴 背囊 水筒 ラッパ サーベルを、それぞれ展示していました。展示リストを作成しています。

Tel:072-469-7140 Fax:072-469-7141

<http://www.city.izumisano.osaka.jp/ka/rekishi.html>

箕面市立郷土資料館：大阪

「戦時生活資料展」が 2011 年 8 月 5 日～29 日の会期で開催されました。1945 年の戦争終結以来、すでに 60 年以上の年月が過ぎ、ますます戦争を知らない世代が増えてきています。しかし、反戦・平和を祈願する気持ちはあらゆる世代が共有するものであり、また、それは共有されなければなりません。箕面市立郷土資料館では、その気持ちを後世に伝えていくために、1989 年の開館以来、施設移転にともなう 2006 年を除いて、毎年この時期に『戦時生活資料展』を開催してきました。戦後 66 年目をむかえる本年も、平和の尊さを祈念するとともに、戦争の悲惨さや不幸の記憶を風化させないために、『戦時生活資料展』を開催しました。展示した資料の多くは、市民から寄贈されたものです。また、展示品の選定、説明文作成、レイアウトなどの展示作業は、資料館で実習を受けた博物館実習生が、資料整理員をしている市民の指導のもと、担当しました。本展は、関係者の反戦と平和への心よりの願いが込められた展示です。この展示会は、世界中から戦争・紛争などの争い事がなくなることを祈っていただきたいと開催したものです。主な展示品は、開戦の証書 赤紙 飯ごう 水筒 アルミ皿 鉄帽 千人針 防寒帽 巻脚絆 軍靴 赤十字袋 リュック サック 集束焼夷弾の尾の部分 回覧板 ラジオ 米つき 雑誌 教科書 陶器製おもり 陶器製のゆたんぼ 防空ずきん もんぺ 国民服 布バケツ 竜吐水 火はたき 木銃 防火砂弾 防毒面 軍票 紙幣 配給切符 通帳 債券 たばこ 軍事郵便 終戦の新聞 です。展示リストを作成しています。

Tel:072-723-2235 Fax:072-724-9694

<http://www2.city.minoh.osaka.jp/KYODO/>

小野市立好古館：兵庫

企画展「青野原収容所俘虜がみた日本一新発見の俘虜撮影写真から」が 2011 年 10 月 1 日～30 日の会期により、2 階展示室で開催されました。小野市と神戸大学が取り組んできた青野原俘虜収容所の調査の総まとめとして、ドイツで発見された俘虜が撮影した写真を展示し、俘虜の目を通してみた日本や地域住民との交流の様子を伝えるものでした。

Tel : 0794-63-3390 Fax : 0794-63-3462

<http://www.city.ono.hyogo.jp/~kokokan/>

奈良県立図書情報館：奈良市

戦争体験文庫企画展示「産業組合から農協へー戦時・戦後期の協同組合の再編」が 2011 年

10月1日～12月27日の会期で開催されました。生産・消費・金融などさまざまな経済活動を相互扶助の論理に基づいて組織する協同組合は、日本においては、二宮尊徳門人による報徳社やドイツの農村信用組合を参考として、明治期に「産業組合」として制度化されました。産業組合は疲弊する地域経済の維持・発展を目指し全国に普及し、活発な活動を展開していました。特に農村では、政府の推奨政策もあって普及が進み、また都市部でも市街地購買組合(生協の前身)や市街地信用組合(信用金庫などの前身)が産業組合法の下に誕生していきます。昭和初期には、経済恐慌など、当時噴出していたさまざまな社会問題を産業組合の活用によって解決していこうとする機運も高まっています。産業組合は、戦時統合と戦後改革の中で再編され、現在の農協や信用金庫などにつながっていきます。その過程について、『家の光』や奈良県庁文書などを展示して、奈良県の事例を紹介していました。

Tel:0742-34-2111 Fax:0742-34-2777
<http://www.library.pref.nara.jp/sentai/>

水平社博物館：奈良・御所市

第12回企画展「大和同志会と融和運動—全国水平社創立前夜」が2011年12月10日～2012年3月25日の会期で開催されました。2012年は全国水平社の創立90周年であるとともに、大和同志会が創立されて100周年にあたります。水平社の先駆的な存在である大和同志会に焦点をあて、その運動を再評価するとともに、融和運動や部落改善運動の展開について紹介しています。

Tel:0745-62-5588 Fax:0745-64-2288
<http://www1.mahoroba.ne.jp/~suihei/>

米子市立山陰歴史館：鳥取

「戦争の記憶展」が2011年8月6日～19日の会期で開催されました。展示を通して戦時中の人びとの喜怒哀楽を感じ、私たちが享受している平和が当たり前でなく、今日の平和が、多くの戦争犠牲者の上に成り立っていることを知ってほしいという趣旨で開かれました。鳥取市の空襲を予告するアメリカ軍のビラや特攻隊員の遺書など、山陰歴史館と鳥取県立博物館の所蔵品から第2次世界大戦中の資料150点を展示しました。空襲を予告するビラは1945年8月5日、アメリカ軍機から鳥取市の仁風閣付近に投下されました。戦闘機が爆弾を落とす写真とともに鳥取をはじめ12都市が記され、爆撃を予告しています。戦火に巻き込まれることが少

なかった鳥取が、爆撃の対象となっていたことを物語っています。特攻隊員の遺書は、鳥取市の青年が出征前に母親に宛てたもので、自身の死を落胆しないよう思いやる気持ちがあふれています。このほか、銃後を守る家族の資料としては、米子市の陰田射撃場で射撃訓練を受ける女学生や荒れ地を開墾してイモを栽培する国民学校の児童の写真、衣料・石けん・砂糖などの生活必需品の配給切符、父親・夫・息子の戦死により「出征」が「忠魂」に変わった門札などが、兵士の資料としては、ビルマ戦線で使われたとされる飯盒、出征者の名前や武運長久の文字が記された日章旗、特攻隊員の飛行帽、戦地に赴く兵士が身に付けた千人針、兵士に送られた慰問袋なども展示しました。

関連して2011年8月13日に米子コンベンションセンターで、フリージャーナリストの綿井健陽さんの講演会が開かれました。

Tel:0859-22-7161 Fax:0859-22-7160
<http://www.yonagobunka.net/rekishu/>

高松市市民文化センター平和記念室：香川

第21回高松市戦争遺品展が戦災の記憶を伝え平和を考えるきっかけにするために、2011年8月3日～5日の会期により、高松市役所1階市民ホールで開かれました。太平洋戦争当時の子どもたちが学校の防災訓練でバケツリレーや防空壕避難をおこなう様子など学校生活の様子を捉えた写真や、友軍機か敵機かを見分けるため、毎日のように聴音テストがあったことなどの体験談、高松空襲で市街地に投下された焼夷弾や空襲の炎で溶けた硬貨など約100点が展示されました。紛争が続くソマリアの写真展も同時開催され、避難民キャンプや栄養失調の子どもたちを捉えたソマリアの現状を紹介していました。

平和記念室企画展「平和学習のために—戦時中の暮らしを中心に」が2011年8月19日～9月4日の会期により、市民文化センター1階ロビーで開催されました。

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7724
<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/1794.html>

碓井平和祈念館：福岡・嘉麻市

「戦時下の心をつなぐ軍事郵便と慰問文」展が2011年7月30日～2011年9月4日の会期で開催されました。遠く離れた家族のこころをつないだ軍事郵便、兵士の士気高揚のため女性や子どもたちが戦地に送った慰問文、シベリアに抑留された小竹町の男性による挿絵付きの書簡や、戦時中の娯楽品など約80点を展示し、

戦争と平和、そして人と人との「絆」を考える
きっかけとなることを祈って開かれたものです。
Tel:0948-62-5173 Fax:0948-62-5171
http://www.city.kama.lg.jp/info/prev.asp?fol_id=4209

飯塚市歴史資料館：福岡

企画展「戦争とくらし展」が2011年8月4日～28日の会期で開催されました。飯塚市歴史資料館は子どもたちに平和の尊さを学んでもらおうと、3年前から終戦記念日に合わせ、企画展を開催してきました。2011年は飯塚市遺族連合会などから寄せられた、ビルマや硫黄島の戦地に赴いた筑豊出身者が家族にあてた手紙や遺書など約200点を展示しました。
Tel&Fax:0948-25-2930
<http://www.city.iizuka.lg.jp/rekishi/index.htm>

長崎原爆資料館：長崎市

2011年度第2回企画展「原爆資料館収蔵資料展」が2011年7月28日～9月15日の会期により地下2階企画展示室で開催されました。2010年7月から2011年6月までに寄贈された資料をはじめ、常設展示していない資料28点を公開しました。また、被爆から66年を迎え、収蔵品の中には時間の経過により劣化が進むおそれがある資料もあるため、2010年度、一部の資料について保存修復処理を実施しました。今回の企画展では、処理が完了した資料も併せて展示していました。静かに、しかし力強く「八月九日」を伝える無言の証言者たちが、私たちに託した証言者たちのメッセージを感じてもらうために開かれたものです。

2011年度第3回企画展「8.10 ナガサキ展」が2011年11月30日～2012年3月6日の会期により地下2階企画展示室で開催されました。1945年8月10日、長崎に世界で2発目の原子爆弾が投下された翌日、東潤、山田栄二、山端庸介の3氏は、軍の命令で長崎に入りました。地獄絵図と化した長崎を目の当たりにした彼らは何を記録したのか。この展示では3氏が残した資料に焦点をあて、「1945年8月10日」の足跡を辿るものです。
Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170
<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/peace/japanese/abm/>

薩摩川内市川内歴史資料館：鹿児島

ミニ企画コーナー「終戦記念展示－戦争と鉄

道」が2011年8月2日～9月4日の会期により2階ロビーで開かれました。今回の展示では、戦争と鉄道の関係をテーマとして、鉄道と軍部との関係、日清戦争・日露戦争から日中戦争・太平洋戦争にかけての近代の戦争において鉄道が果たした役割を紹介していました。太平洋戦争では川内が受けた空襲についても、被害状況一覧表、罹災区域図、アメリカ軍が撮影した市街地爆撃の写真を展示していました。
Tel:0996-20-2344 Fax:0996-20-2848
<http://rekishi.sendai-net.jp/index2.htm>

うるま市立石川歴史民俗資料館：沖縄

企画展「戦後沖縄教育の歩みと「伊波常雄教育資料」展」が2011年8月23日～9月25日の会期で開催されました。伊波常雄が高校のときに勉強したノート、先生になって後の日案、アルバム、当時の教科書など、個人で保管していた資料が展示されました。

関連して、シンポジウム「戦後沖縄の教育の歩み－石川の記憶を語る」が2011年9月3日にうるま市立石川地区公民館ホールで開かれ、パネリストとして比嘉静（元小学校教員）、豊濱光輝（元小学校教員、石川・宮森630会会長）、伊波則雄（元小学校教員、伊波常雄氏実弟）のみなさんが参加しました。シンポパネリストの元教員3名は、いずれも1959年6月30日に起きた石川・宮森小学校ジェット機墜落事件の際の教員だった方がたです。
Tel&Fax:098-965-3866
<http://www.city.uruma.lg.jp/1/201.html>

沖縄県平和祈念資料館：糸満市

企画展「アメリカ（ユー）の沖縄 琉米文化会館を通して」が2011年10月10日～12月11日の会期により1階企画展示室で開催されました。戦後から復帰までの時代、アメリカがどのように占領政策をおこなってきたのか、また生きることに絶望的になりそうな中で力強くアメリカ統治下を生き抜いてきた住民のヴァイタリティーについて考察し、平和を考えるものでした。

2011年度第3回子ども・プロセス企画展「わたしたちの人権一人権について考えてみよう」が2011年10月10日～11月30日の会期により1階ひろば・ゆいまーでで開催されました。身近な人権問題や世界で起こっている人権問題をパネルやクイズでわかりやすく紹介していました。

2011年度第4回子ども・プロセス企画展「太平洋戦争開戦70年－戦争中の人びとのく

らし」が2011年12月1日～2012年1月31日の会期により1階ひろば・ゆいまーるで開催されました。2011年は太平洋戦争開戦から70年の節目の年にあたります。この企画展では、戦争によって国民の生活がどのように変化したのかを中心に展示しました。

Tel : 098-997-3844 Fax : 098-997-3947

<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

対馬丸記念館：沖縄・那覇市

第17回対馬丸記念会特別展「昭和の暮らしー激動の時代、人々は何を思い何を感じたのか」が1階企画展示室で2011年8月19日～26日の会期により開催されました。

Tel:098-941-3515 Fax:098-863-3683

<http://www.tsushimamaru.or.jp/>

沖縄県公文書館：南風原町

特別企画「在外同胞 世紀を越えた移民たち」が2011年7月12日～12月22日の会期で開催されました。1899年の沖縄における初めての海外移住から今日までの移民のあゆみを、琉球政府文書、湧川清栄（ハワイ一世）資料、比嘉太郎（ハワイ二世）資料などで紹介したものです。

Tel:098-888-3875 Fax:098-888-3879

<http://www.archives.pref.okinawa.jp/>

海外のニュース

ノグンリ国際平和基金による平和イベント

サイド・シカンダ・メーディ

(sikander.mehdi@yahoo.com)

第4回ノグンリ国際平和賞

2011年12月21-22日、韓国ソウルとノグンリにおいてノグンリ国際平和基金による平和イベントが行われました。12月21日夜にホテル・プラザで行われた第4回国際平和賞式典では、安斎育郎教授（INMP 役員、日本の著名な平和研究者で活動家であり、平和博物館の専門家）が人権賞を受賞しました。式典では、ハンギョレ新聞（アン・スーチャン記者など）がジャーナリスト賞を、タエ・チョン放送（キム・サンギ記者など）が放送賞、また小説家のカン・ビュンスク氏が「Legend of Green」という作品で文学賞を受賞しました。

表彰の際には受賞者の一言もありました。受賞スピーチで安斎教授は、名誉ある平和賞の受賞に対する謝辞を述べるとともに、平和研究や

平和活動、21世紀のアジアや全世界における平和博物館の重要性を強調しました。式典は、平和の歌の唱和により厳かに終了しました。100人以上もの著名な研究者、メディア関係、一般の方などが参加されました。

第5回ノグンリ国際平和学会

12月21日午前には第5回ノグンリ国際平和学会がソウル国立議会図書館にて行われました。よく練られたプログラムは、英語と韓国語で進められました。ノグンリ国際平和財団の会長であるチョン・クドゥ博士は、財団設立の背景と国際平和に関する学会を毎年開催する目的について歓迎の挨拶で述べました。

2回のセッションの間、以下の全7プレゼンテーションが行われました。1) アメリカ、シカゴ大学のハーバート・ジョージ名誉教授の「戦争、最後の記憶」 2) 京都、立命館大学の桂良太郎教授による「平和への新しいアプローチのための博物館間ネットワーク作りに向けて」 3) パキスタンのカラチ、経営技術研究所（Biztek）のサイド・シカンダ・メーディ教授による「ワガー国境とカイバル峠に関する平和博物館の設立ー課題と展望」 4) 朝鮮慰安婦委員会会長ユン・ミヒャン氏による「過去20年間の日本陸軍慰安婦生存者のための水曜社会運動」、5) 済州島 4.3 研究所所長キム・チャンフ氏による「済州島 4.3 事件の真実公開50年の活動」 6) 朝鮮の真実と調停委員会の元調査員アキム・ジョンガス氏による「大虐殺の真実公開と遺族特別法成立への活動」 7) 朝鮮現代社会調査研究所のジョン・ホギ博士による「政府による暴力に対する組織設立と展望ー民主主義運動を中心に」

解りやすく質の高い論文発表の後、韓国の著名な研究者や平和活動家らによる包括的議論、質疑応答が行われました。会議の前夜、多数あった会議の参加者に第5回ノグンリ国際平和学会の出版物が配布されました。この出版物は会議で発表された全論文を掲載しており、英語論文も韓国語訳されています。

ノグンリ平和公園・博物館

翌日の12月22日午前、ノグンリ平和公園・博物館の視察が行われました。40数名の研究者、平和活動家らが参加され、韓国の著名な教育者や市民団体の指導者、安斎育郎教授ご夫妻と秘書の島野由利子氏、桂良太郎教授、ハーバート・ジョージ教授、ノグンリ平和賞委員会会長チョン・ユンヨン氏らが、ノグンリ国際平和財団議長チョン・クドゥ氏のガイドでバスツアーを楽しみました。ソウルのプラザホテルからノグンリ平和公園・博物館まで約1時間半の旅程でした。

公園がある場所は、60年前にノグンリ大虐殺があったという意味で歴史的に重要です。歴史的悲劇の舞台である広大な土地に造られ、シンボル、記念碑やノグンリの悲劇を物語る博物館の建物など設計、計画ともに素晴らしいものです。公園を訪れ、生存者の方々に会った代表者らは、亡くなった方に敬意を表し彼らの声に耳を傾けました。平和博物館国際ネットワークとノグンリ国際平和基金により 2014 年に会議が行われることを知らせる大きなバナーが掲げているのを目にし、INMP の役員として安齋教授と私は大変感激しました。

その後、最近建設され開館した美しい平和博物館を見て廻りました。ギャラリーや設備の整った 500 席のホール、6 人程度収容できるいくつかの小会議室などがある大規模な建物です。そこで、ノグンリ大虐殺や、合衆国からの謝罪・補償を求める運動についての迫力あるドキュメンタリーを鑑賞しました。当日、大虐殺や謝罪・補償運動に関連する写真展が行われており、写真を通して歴史を学びました。韓国や各国の研究者によって英語、日本語、韓国語で書かれた多くの書籍がよい状態で保存されており、この悲劇を後世に伝えようとしています。しかし、こうした資料や写真は、合衆国やその国民への嫌悪を奨励するものではなく、歴史的物語を伝えるためのものです。平和教育の中心として、この博物館は平和の重要性を強調し、過去の傷を癒すために皆でできることを示唆しているのです。

いずれにしても、行動力あるチョン・クードゥ議長のもと、2011 年 12 月 21・22 日にノグンリ国際平和財団によって開催されたイベントは際立って想像力に富んだ効果的なものであり、2014 年開催予定の平和会議などより大規模のイベントも、チョン・クードゥ博士と彼のチームが成功させていただけるものと確信しております。

チャールス・H・ライト・アフリカ系アメリカ人歴史博物館：アメリカ合衆国

「クリス・ウェバー・コレクション：1755 年から現在一激動の時代の優れた人々」

2011 年 4 月 7 日—2012 年 4 月

デトロイト出身のプロバスケットボール協会オールスター・プレイヤー（既引退）であり、NBA のアナウンサー、クリス・ウェバー氏のコレクションは、アフリカ系アメリカ人初の作家フィリス・ウィートレーや、現代公民権運動の母ローザ・パークス、公民権運動リーダーのマーチン・ルーサー・キング牧師など、アフリカ系アメリカ人の偉人達の生涯や遺産を明らかに

する多くの珍しい資料です。最初は、ウェバー自身の個人的興味から始まりました。コレクションが多くなるにつれ、アメリカを形作る手助けをした人々について、社会に、特に子供達に伝えるのに役立つのではないかと彼は気付いたのです。ウェバー氏は現在、継続的な展示という形で公開しています。訪れた人は彼らの遺産を垣間見、バスケットボール・プレイヤーであり慈善家、アフリカ系アメリカ人の歴史収集家としてのクリス・ウェバーの違った面を見つけることでしょう。

Charles H. Wright Museum of African American History

315 East Warren Avenue

Detroit, Michigan 48201-1443

www.TheWright.org

エンヴィジョン・ピース・ミュージアム どんな建物？

大学の教授・学生の皆さんにボランティアで当館のデザインにご協力いただいておりますが、2008 年秋にはドレクセル大学建築科の学生約 50 名により、教授の指導のもと、建物の構想図が作成されました。

どんな展示？

多層階に渡る広々とした空間で、「平和と正義」の本質・意味・展望・方策を探る展示を楽しみながら学び、かつ刺激を受ける一当館はそんな博物館を目指しています。

「平和」にも様々な相があるように、個人で静かに過ごせるコーナーもあれば、双方向ゲームや討論会など、グループで挑戦と冒険を楽しめるコーナーもあります。

当館は最終的な答えを提供する場所ではありません。疑問、新たな手段、視点を当館で探り、自身の結論を導き出してください。

当館のヴィジョンをいかに表現するか？—ニューヨーク州立ファッション工科大学の学生 16 名が 2009 年秋の一学期を通じてこの問題に取り組み、当館の表現能力が大幅に向上しました。学生たちは展示委員会、著名なデザイナーのノーマン・ブレックナー氏の指導のもと、平和と非暴力活動についての分かりやすく、面白く、説得力のある展示法を考察し、その独創的かつ刺激的なアイディアは当館のホームページのデザインにも活かされています。

2012 年の展示基本計画は現在作成中です。ご意見・情報等、当館ホームページの

「Contact」にお寄せください。

ENVISION PEACE MUSEUM

1651 Benjamin Franklin Parkway

Philadelphia, PA

ブラッドフォード ピースミュージアム友の会 通信 (2011 年冬)

新展示: Playing for Peace

Playing for Peace 展では、平和な世界を作るためのスポーツの重要性について模索し、人々の間の壁の除去、人権確保への努力、暴力を克服した社会での和解プロセス等においてスポーツが担う役割について考えます。この展示は、共通点を見出して異なるグループの人々を一つにするためにスポーツがどのように役に立って来たかを検証するとともに、スポーツが闘争や対立を引き起こす可能性やそれにどのように対処したら良いかについても考えさせてくれます。

Playing for Peace 展は、ピースミュージアムとコベントリー大学の平和・和解学センター (Centre for Peace and Reconciliation Studies) とのコラボレーションで開催され、London 2012 Truce Related Inspire Mark を受賞しました。この賞を受賞したプロジェクトは全国で7つしかありません。この受賞はオリンピック休戦の理念の促進活動を認められたものです。オリンピック休戦は、古代ギリシャから続く伝統で、世界中の国々にオリンピック競技の間は武器を捨て、善意、調和、そして和解を奨励するものです。

Playing for Peace 展では、平和の促進のためにスポーツが重要な役割を果たした歴史上の出来事を展示します。例えば、1994 年の冬季オリンピックでは、オリンピック休戦が適応され、子供達にワクチンを供給するために包囲されたサラエボの町に医療スタッフが投入されました。また、「戦争をやめてテニスを始めよう」キャンペーンでは、パキスタンとインドのテニスのスターが、戦争によって引き裂かれたカシミヤ地方で唯一の二国を繋ぐ道路にネットをかけてテニスの試合をするのを承認するように、それぞれの政府に呼びかけました。

Playing for Peace 展は、学校、博物館、コミュニティスペースに最適です。展示は、展示版 (A2 と A1 サイズ) 及びデジタル版 (CD) でご利用出来ます。この展示は、「スポーツ、勇気、平和、友情」と言う生徒と教師用の教育パッケージ (47 ページの教師用マニュアル、CD-ROM 付き) の協賛で行われます。ミュージアムでは展示に即したワークショップも開催します。

平和博物館での学び、教育、奉仕活動

当館は YMCA 最新施設カルチャーフェージュ

ンにおける教育施設の新設をはじめ設備充実に努めています。ピースポッドアンドルームは当館の中心的存在として学校関係者にも評判です。11 月に最初の子供達が訪問しましたが、学期末まで多くの予約を頂いております。

現在から夏季の終わりまでには最低 1000 人の子供達や若者が、我々と活動する見通しです。YMCA の協力のもと、また学校ネットワーク “リンキングデイズ” の一環として独自のプログラムを学校へ提供しています。

今年の主な取り組みは「オリンピックと平和」です。オリンピックゲットセットプログラムに協賛としての参加を依頼されており、我々の学校や若者、ブラッドフォード金賞の印のついたコミュニティグループに対する事業内容の広告権も与えられます。各アクティビティや QR コードの読取、ブログ、オンライン評価には携帯学習機器を活用しており子供達や若者が展示物や収蔵品について学ぶのに役立っています。最新テクノロジーの導入はイノベーションセンターブラッドフォードの協力により支えられています。

その他学校関係のプロジェクトは“追悼だけでは十分ではない デザインに平和を” (アートプロジェクト)、“メイク・インパクトキャンペーン”等。

ピースミュージアム活動報告

修理とギャラリーの床の修繕、新しい話やリンクを使ったコレクションのアップデートのため新年まで休業します。新しい資料が展示され、新しい展示コーナーも新設して、数ヶ月ごとに展示を入れ替えます。寄付金のご協力をお願いします。正式なリニューアルオープンは 3 月 7 日水曜日の 5 時~6 時半に行われます。その後の開館時間は、木金 10 時~16 時、毎月第二土曜日 10 時~15 時です。

感動を与える話 (オーラルヒストリー)

ピースミュージアムは、平和キャンペーン活動家の話を書きとめ、ミュージアムのコレクションに加えるために、ユニークなオーラルヒストリー (口述歴史) プロジェクトに取り組んでいます。2010 年初めから、リーズ・メトロポリタン大学と提携して、学生ボランティアに、オーラルヒストリーインタビューを実行・記録するためのスキルを教育しています。

リーズ・メトロポリタン大学 平和学教授のデイブ・ウェッブ氏によると、平和学の 4 年生の学生達は、オーラルヒストリープロジェクトのおかげで「平和作り」についてそれぞれの考えを形成することが出来るそうです。学生は、地域にいる長年の平和活動家とのインタビュー

を記録することによって、知られざるヒーローが自分たちの身近な所、想像もしなかった様な所にいることを学びます。我々は全て歴史の一部であり、時には被害者であり、時には傍観者であるが、他の時には積極的に関係しているのです。時には良心の問題として行動を起こし、またある時には出来事が降り掛かって来るのです。状況はどうあれ、平和活動家のお話は、複雑で混迷を極める時代に人間らしさを加え、理解しやすくしてくれます。また、選択を迫られると言う状況は誰でも経験があるものです。何か言うべきか、言うべきでないか。何を言えば良いのか。何かすべきか、すべきでないか。若者は、人が倫理的または私的な苦難に面した時にどのような行動をとるのかを知り、教訓を学び、感動するのです。もっと平和的な社会を作るために特定の決断を下した人達の話聞くことによって、学生達は、歴史を変えるのは有名で影響力のある人だけではなく、普通の人達が素晴らしいことをすることによっても変わるのだと言うことを知ります。あまり知られていない人でも、一人で、または他人と協同して、自分が信じることのために立ち上がり、その大胆さ、献身、粘り強さによって傑出すると言う話は、私達に興味深く、そして貴重な教訓を教えてください。学生達にとって、話が語られるその場に居合わせ、ずっと多くの人々に自分たちの声を聞いてもらえる、そのプロセスに生まれて初めて係ることは、素晴らしい機会であり、ずっと忘れることの出来ない経験になるでしょう。

プロジェクトは、2012 年も続けられます。10 回のインタビュー（と原稿起こし）が目標です。インタビューは全て、ミュージアムの常設コレクションになり、長年に渡って来場客を感動させ、情報を提供することになります。

グローバル・アート・プロジェクト

「平和のためのグローバル・アート・プロジェクト 2010」の作品写真が、同プロジェクトのホームページに掲載されました。合計 141 の作品写真のうち 58 作品が公開され解説や他の画像と共にご覧いただけます。平和への思いが込められた素晴らしい作品が多数寄せられ、掲載作品の選考作業は難航しました。世界各国から届いた全作品をご覧いただけないのは残念ですが、愛と平和に満ちた未来へ向けて種を蒔く、実りある作品集でした。2012 年の同プロジェクトに向け、作品募集中です（締切りは 2 月 29 日）。皆様からの素晴らしい作品がグローバル・アート・プロジェクト継続への原動力となっております。ご応募お待ちしております。

キャサリン・ジョステン
設立者/ディレクター
www.globalartproject.org

平和のための競技： スポーツ・勇気・平和・友情

展示会「平和のための競技」は、24 枚の写真パネルと共に、オリンピックの価値観(Olympic Values)によって、いかにして平和な世界を築くことができるかを考えるものです。人々の間の壁をなくし、人権を確保し、平和を推進する上で、スポーツが果たす役割について考えます。写真と解説は、スポーツを通じて多種多様な人々が結びつき、互いの共通点を見出してきた過去の事例を説明しております。

本展示会は、平和博物館、平和センター、およびコベントリー大学の和解研究チームによる共同プロジェクトでありロンドンオリンピック“Truce Inspired Mark”を受賞した全国 7 つのプログラムのひとつです。陸上競技 5000 メートルの元世界記録保持者であるデビッド・ムーアクロフト氏によって正式に発足しました。

展示会の他にも、展示資料の貸し出しや教材の販売、また学校や博物館施設でのワークショップを実施しております。「平和のための競技」および「スポーツ・勇気・平和・友情」はロンドンオリンピック公認教育プログラム“Get Set”を後援しており、ブラッドフォード市のオリンピックプログラム“Bradford Gold”の一環でもあります。

問い合わせ先： 平和博物館

Tel. 01274 434009

E-Mail: learning@peaceuseum.org.uk

www.peacemuseum.org.uk

壊れた人間関係博物館：クロアチア

ドイツのブレーマーハーフェンで 5 月 21 日に開催されたヨーロッパ博物館ケネス・ハドソン賞が、クロアチアのザグレブにある「壊れた人間関係博物館」に授与されました。この賞は博物館の普通の役割を超えて大胆で革新的な活動をしている人々に与えられます。この博物館では失恋や離婚、その他人間関係が壊れた場合に、政治的社会的文化的状況を考慮して話し合うことを勧めています。訪問者は思い出の物を提供し、抑圧されていた感情から解放されます。なおケネス・ハドソンは、イギリスの考古学者で、国際交流の促進を目指してケネス・ハドソン賞を創りました。

Museum of Broken Relationships

Čirilometodska 2,

10 000 Zagreb, Croatia

Tel: +385 1 4851021
e-mail: info@brokenships.com

平和美術館Missing Peace Art Space : U S A ステファン・フライバーグ館長 (Stephen Fryburg)

展示作品は、今日とても重要な諸問題、特にイランとアメリカの緊張問題を扱っています。エミリー・ジョーンズさんは、ほとんどのアメリカ人が知らないイランについて表現しています。(“[Drawing Paradise on the Axis of Evil](#)”) 私たちはまたイランとアメリカの子どもが描いた平和に関する絵画を展示しています。“[Combat Paper Project, We are not Enemies](#)”では、イラク戦争に送られて幻滅した米兵による作品です。次のウェブサイトを開いてみてください。

Missing Peace Art Space,
www.MissingPeaceArt.org

アメリカ平和記念財団

アメリカ平和記念財団は、南フロリダ大学名誉教授のマイケル・ノックス博士によって創設されました。詳細は次のウェブサイトに載せられています。

www.uspeacememorial.org/Knox.htm

スタッフは皆ボランティアで活動をしています。平和教育では、人々が様々な問題を知り、その解決法を学ぶことができるように取り組んでいます。詳細は次のウェブサイトで紹介されています。
http://www.uspeacememorial.org/About_us.htm

平和博物館について語る時、話すことは パットポルン・プーソング (タイ) : Patporn Phoothong

私は過去半年以上日本で平和博物館が平和教育において重要な役割を果たすことができるのかどうか、また平和博物館が政治的メッセージを強く発信しているのかどうかを考え研究しています。主として国際平和ミュージアム、広島平和記念資料館、長崎の原爆資料館、岡まさはる記念長崎平和資料館、ひめゆり平和資料館に焦点を当てています。平和博物館へ行くといつても、それが歴史的真相を展示しているか、また訪問者が平和構築に参加できるように励ましているのかを知るようにしています。しかし私の研究の進み具合は遅く、実際私はあまりにも先走りをしてきたことに気がきました。私は出発

点に戻り、平和と博物館の定義と概念をもう一度研究すべきなのです。

平和博物館あるいは平和のための博物館の定義は明確であるとわかりました。しかし平和と博物館の概念はダイナミックなのです。平和と博物館に関する集団のあるいは個人の概念は、政治、文化、教育、体験に基づいています。そのように、「博物館」は再構築、再定義、再解釈が可能です。同時に「平和」は、戦争や紛争がない状況以上のことを示しています。

平和博物館について私が最初に見出したことは、新しいことではありません。というのは、平和博物館におけるあらゆる展示や活動は、その目的や平和の考えに基づいて行われるからです。そして平和博物館の機能や責任は、各々の博物館が捉え定義している「博物館」と「平和」の概念と定義に基づいています。一方で平和博物館と訪問者の相互作用は、訪問者あるいは社会が理解している平和あるいは博物館の考えに基づいています。

平和と博物館の定義と概念の研究をしていて、2つ関連した疑問を抱くようになりました。

1) 訪問者と博物館の関係と 2) 平和博物館における政治的メッセージです。訪問者が平和博物館に入ると、博物館で展示物の説明を読んだり、展示物を見たり、いろいろ聞いたりして情報を受け取るだけでなく、彼らの経験にも続いてそれらについてよく考えるのです。このような過程を経て訪問者は様々なことを解釈し、博物館で学んだことに疑問を抱くのです。そして最後に新しい知識を学んだり、あるいは少なくとも何か考えを抱くようになるのです。それで私は博物館で書かれていることや述べられていることは重要であり、学校で学んだことや社会で言われていることと比較して研究すべきであるということがわかりました。例えば、歴史、戦争の記憶、近隣諸国との関係、そして最も重要なことは平和と紛争とは何かなどです。

私はまた平和博物館における政治的メッセージについて考えました。私たちは戦争と軍国主義を美化している戦争博物館に行くことを、避ける傾向があります。平和博物館では共通の目的を分かち合うことができるので、そちらへ行くことを好みます。しかし私たちは平和博物館という名の下で、平和博物館が主張していることを疑問や批判なしに受け入れて信じるかもしれないことに気付いているのだろうかと思うのです。

私はタイと日本の状況において平和と博物館の定義と概念を研究しようとしています。それらがどれだけ重要であるかに気がきました。というのは、それらが私たちの行動や成すべきことに影響を与えるからです。

さらに私は平和の概念と博物館の展示の關係に注目するようになりました。各博物館が、平和的な社会に私たちが住んでいるかどうかという疑問をどのように反映させているか、また訪問者が博物館のメッセージをどのように思っているのかなどです。

私の疑問への答えはまだ見つけることができていないので、研究は進行中です。しかし博物館と平和の定義と概念の影響が、平和博物館について語る時のトピックのひとつになることを願っています。

新しい展示について

ケヴィン・カッケルヴィー氏はアメリカのミズリー出身の芸術家で、作品の前で鑑賞者が動くことと異なった絵画を見ることができるような三次元の作品を生み出しています。彼は平和に関する新しい作品を創造しています。「ある人生：自覚への呼びかけ」と題した展示物は、歴史的・政治的・社会的に重要な人物の肖像画を集めたものです。それはこの地球において人類はたった一つしかなく、我々はレットル、所属している組織、同族意識、イデオロギーによって別れていることを示しています。

16の肖像画が創られ、歴史的・政治的・宗教的・社会的に重要な人物の8つのイメージを見ることができます。しかし三次元のイメージにおいて、どれが罪人で、どれが聖者でしょうか。どのイメージが愛され、どのイメージがののしられているのでしょうか。誰が愛国主義者で、誰がテロリストでしょうか。誰がカリスマ的で、誰が精神異常者でしょうか。その答えは、勿論あなたが立って絵画を見る所、あなたの視点によって決まるのです。

ケヴィン・カッケルヴィー氏はこの展示物を、同じ目的を持ち平和を求める個人や団体と分かち合うことに大変関心を示すことでしょう。彼の展示物は、次のウェブサイトで見ることができます。www.splittinimage.com

学校の教科書における平和博物館

スペインのゲルニカ平和博物館が中等学校の教科書で紹介されたという嬉しいニュースがあります。別の教科書には、サマルカンドの国際平和連帯博物館が紹介されています。このことは、教科書に平和博物館が載せられることが多くなっていることを示しています。最近まで教科書に載せられる博物館と言えば、ルーブルのように有名な美術館に限定されていました。

出版社ではだんだん教科書の執筆に関わるようになり、中等学校の生徒のために様々な平和

博物館の活動の評価を行っていると聞いています。多くの生徒は、授業で討論された課題をクラスの外で調べてみることにほとんど関心がありません。教科書で平和博物館の紹介をしているとこのような傾向を変え、生徒が平和博物館の重要な活動に接する助けとなるでしょう。

日独友好 150 周年記念行事

ドイツのオスナブリュックにあるエーリッヒ・マリア・レマルク平和センターで、広島平和記念資料館の「あれは地獄だった。1945年の広島と長崎」という展示がされました。それは2011年9月に始まり、日独友好150周年記念行事として公式に開催されました。ドイツ連邦大統領のクリスチャン・ウルフ氏と皇太子の後援で開催されました。

1945年8月広島と長崎に原爆が投下され、20万人以上の人々が亡くなり二つの都市は完全に破壊されました。広島平和記念資料館の展示では、たくさんの写真、映画、被爆者のインタビューの記録を基に原爆投下とその結果、永続する影響について記録しています。

希望の博物館に向けて：変動する世界のための変化する博物館

ジュネーブにある国際赤十字赤新月博物館は、2013年の春までリニューアルのために閉鎖されています。新しい展示が3つのテーマで作られ、いろいろな文化を持ち国際的に著名な建築家によって設計されています。ブラジルのグリーンゴ・カルディアによる「人間の尊厳を守る」、ブルキナファソのディエド・フランシス・ケレによる「家族のつながりの再構築」、そして日本のシゲル・バン（坂茂）による「惨事の拒否」です。展示のデザインは、スイスのラニューヴェヴィルのアテリエル・オイシによって監督されています。「現場で」のところでは、地球における最新ニュースを大規模に対話方式で示すようにしています。

詳細は次のウェブサイトをご覧ください。

www.micr.org

英国ブラッドフォードにおけるラジオ：平和の音楽

ネットワーク会員のベッツイー・カワムラさんは、英国ブラッドフォードの平和音楽ラジオショーに出演して、BCBラジオのベン・ムッサンジさんにインタビューされました。彼女は平和と非暴力の考えについて質問され、なぜ女性の問題に取り組んでいるのかを聞かれました。

それは7月23日に放送されましたが、ちょうどノルウェーで悲劇的時間が起こった後でした。そのショーの初めにビートルズのノルウェーの森という曲を彼女が選んだのは、偶然でした。彼女はまた日本、コンゴのこと、女の子の兵士についてピースジャム（12人のノーベル平和賞受賞者に支持されている若者の番組）でのワークショップについて話しました。ここではそのポッドキャスト（インターネット上で音声や動画のデータファイルを公開する方法の1つ）を使用できます。（7月23日のDaytime Music）

詩の紹介

次の詩はサマルカンドの国際平和連帯博物館館長のアナトリー・イオネソフ氏から紹介され、瀧由里子さんが和訳して下さいました。

サマルカンドの歌

アリナ・アレクセエヴァ（モスクワ）
Irina Alekseyeva in Moscow
瀧 由里子訳

ああ、サマルカンド！私はあなたを歌う
素晴らしきその姿を讃えよう
この地の中心 レギスタン
永遠に朽ちることがない場所よ

この地の鼓動 ウルグ・ベク
星空のもと 未来を思い描いた
ああ、サマルカンド！その長い歴史は
ティムールの栄華の賜物

神聖なるマドラサ（神学校）
学問とイスラム啓蒙の拠点
今も変わらぬ美をたたえ
数世紀もの歳月を一瞬の時へと変えてしまう

アリシェル・ナヴォイが詠んだ詩
- 愛と力 -
民衆は心奪われ
その心に幸福感が芽生えた

モスクのドーム（丸屋根）とミナレット（光塔）
澄んだ空に輝く昼間の星々のごとく
鮮やかな紺碧の輝きを放ち
装飾紋様のアラビア文字が華麗に彩る

ああ、サマルカンド！ あなたは何世紀もの英知

ここに共存するモスクと教会
この地を愛す人々には
この世で唯一無二の美しい街！

ああ、サマルカンド！ 永久に生き、栄え、
善きことでその名を高めよ！
永遠の世界へと羽ばたき
永遠に我々と共にあれ

平和構築のための新しいウェブサイト

谷川佳子

朝日新聞のウェブサイト「広島・長崎の記憶～被爆者からのメッセージ」が新たに英語版でオープンしました。約200名の証言が英訳されており、年末までに370になる予定です。

世界中から350名以上のボランティアが被曝証言の英語訳に取り組みました。これらの証言は「核なき世界」の実現を願う被爆者たちの静かな悲願の声です。

編集関係者の一人は以下のように述べています。「私は立命館大学国際平和ミュージアムのボランティアガイドやミュージズの翻訳をしている日本の平和活動家・谷川佳子です。私はこのウェブサイトの編集長の補佐をしています。私たちは被爆者の実体験をできる限り正確かつ鮮明に伝えられるような英語訳づくりに苦心してきました。人間性にあふれたその制作プロセスは、完成したものと同じほどに意味深いものでした。

私も手記を読むことによって被爆者の苦悩を追体験しつつ、その制作過程における編集長の真摯な姿勢を見つめてきました。一方、英語を母国語とする多くのボランティアたちは、実に深く、丹念に英訳校正を手がけてくれました。彼らは校正作業を通じて、手記を精読し、原爆投下がいかに残虐非道なものであったかを詳しく知るに至ったわけですが、彼らは非常にショックを受け、心を揺さぶられていました。彼らの献身ぶりは、個人の事情も、引き受けた当初の思いも越えてしまっていたようにさえ思われます。そんな彼らに私も胸を打たれました。」

このウェブサイトは、私たちの慈悲心と想像力とをかきたてる力を持ち、「一人ひとりの名もなき被爆者たちの声に耳を澄ませよう、そして誰もが安らかに暮らせる未来をともに創ろう」そうささやきかけています。

日本語版<http://www.asahi.com/hibakusha/>
英語版

<http://www.asahi.com/hibakusha/english/>

出版物

オランダにおける戦争博物館と記念センターには第二次世界大戦に関する展示があり、その展示に関する本がオランダ戦争・ホロコースト・虐殺研究所から出版されました。その後英語版が出版されました。

題名：Exhibiting the war. The future of World War II Museums in the Netherlands.

著者：Esther Captain & Kees Ribbens 英語での詳細は下記のウェブサイトです。

<http://www.niod.knaw.nl/documents/publications/exhibitingthewar.pdf>

The NIOD Institute for War, Holocaust and Genocide Studies in Amsterdam

この本では戦争博物館において展示されている第二次世界大戦について考え、集団で討議することが重要であること、戦争博物館同士の協力やその他関連した研究所や研究者などと協力する重要性が強調されています。

紛争を非暴力で建設的に解決する方法を伝えるアニメ「みんなが HAPPY になる方法」は、約7分の短編アニメが3本入っています。理論や授業案などの解説書付き。

<http://www.peacevideo.net/>

Working for Peace and Justice
Memoirs of an Activist Intellectual
Lawrence S. Wittner
Univ. of TN Press

大阪大空襲の体験を語り伝える『陽かげの道』
反戦小説集 久保三也子著
国際印刷出版研究所 2011年出版

以下は、安齋育郎さんの放射能・原発・平和関係の主な著書です。

『これでわかる からだのなかの放射能』（合同出版）2011年発行

『安齋育郎のやさしい放射能教室』（合同出版）2011年発行

『増補改訂版 家族で語る食卓の放射能汚染』（同時代社）2011年発行

『放射線のやさしい知識』（飯田博美氏と共編著、オーム社）改訂版 2012年発行（30刷）

『ビジュアルブック語り伝えるヒロシマ・ナガサキ』全5巻（新日本出版社、第7回学校図書館出版賞）2008年（7刷）

『ビジュアルブック語り伝える沖縄』全5巻

（新日本出版社、第9回学校図書館出版賞）2006年発行

『ビジュアルブック語り伝える空襲』全5巻（新日本出版社、第11回学校図書館出版賞）、2008年発行

『岩波 DVD ブック ヒロシマ・ナガサキ』2007年発行

『日本から発信する平和学』（法律文化社）2008年（池尾靖志氏と共編著、2刷）

『放射線と放射能』（ナツメ社）2011年発行（5刷）

『放射能そこが知りたい』（かもがわ出版）2011年改訂版発行（5刷）

『福島原発事故—どうする日本の原発政策』（かもがわ出版）2011年発行

『放射能から身を守る本』（中経出版）2012年発行

『原発ゼロ—私たちの選択』（飯田哲也・大島堅一・長谷川羽衣子氏と共著）2012年発行

『フクシマから学ぶ原発・放射能』（監修）2012年発行

『安齋育郎先生の原発・放射能教室』全3巻（新日本出版社）2012年発行

おことわり

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、署名記事は執筆者の責任で書かれたもので、必ずしも「平和のための博物館・市民ネットワーク」の事務局や編集者の見解を示すものではありません。

編集後記

海外のニュースの和訳では、今井てるみさん、瀧由里子さん、竹田敦子さん、増田妃早子さん、安原三保子さんに協力していただきました。また翻訳のまとめ役をして下さった谷川佳子さんに心よりお礼申し上げます。